

実践報告

札幌市立北の沢小学校

(1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタン」の活用に関する研究

- 豊かな体験や考える場・実践の場を通して生命尊重と相手の人権を尊重する心、好ましい人間関係の確立や社会性を育成する。
- 自然や人間の尊さを知り、他人の痛みが分かる心の優しさ・情操を育成する。

4年生の社会科および道徳・総合的な学習の時間と関連させてアイヌ文化や歴史を学習し、その理解の深化を図るため、札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」での体験プログラムを活用した体験学習を行った。また、人権の基本について学び、自他の尊重について学習した。

(2) 実践の内容

【実践①】「切り絵から広がるアイヌ文化」（総合的な学習の時間）

○ねらい

アイヌ紋様の切り紙製作や鑑賞を通じてその美しさを味わい、アイヌ文化について興味や関心をもつ。

○学習内容

- ① アイヌ紋様を切り紙で表現する活動を通じ、その構成の美しさに触れる。
 - ・ 学級前廊下に展示し、他の学年の子どもや保護者にもそのよさを知らせる。
- ② アイヌ紋様に込められた思いや意味について知る。
- ③ アイヌ文化に関わる絵本や昔話、DVD等資料を活用し、言葉や遊び、地名について興味や関心を広げる。

【実践②】サッポロピリカコタンで学ぶ「自然と人の心」（社会科）

○ねらい

アイヌの人たちの生活と文化を理解し、自然と共生した生き方について理解を深める。

○学習内容

- ① 4年社会科：「昔から今へと続くまちづくり」における中単元1：「アイヌの人たちの生活と文化」の学習と関連させてアイヌ民族の自然観や衣食住等のくらしに関する調べ学習を進める中で、歴史や文化について理解する。
- ② 資料を活用し、簡単な言葉について理解する。
- ③ アイヌ文化交流センターの活動プログラムを理解し、訪問見学の準備をする。
- ④ 札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」を見学する。
 - ・ 歌や踊り、子ども遊びを体験する活動を通じてアイヌ文化に親しむ。
 - ・ アイヌ民族の方から歴史や文化に関する講話を聞き、人権意識を高める。



アイヌ紋様の切り紙



舞踊・音楽の鑑賞と講話



舞踊の体験

- ・ 施設見学を通じ、展示物の見学や民具等の実物に触れたり体験したりしながら、アイヌ文化と歴史について理解する。



子ども遊びの体験



「歴史の森」の見学



展示室の見学

- ⑤ アイヌの人たちの暮らしや文化について学習したことをレポートにまとめ、校内に展示・発信する。

【実践③】「自分らしく生きること」の大切さを学ぶ（道徳）

○ねらい

人権の基本について学び、「自分らしく生きる」ことやそれが大切にされる社会について考える。

○学習内容

- ① 子ども未来局配付パンフレット「大切にしよう子どもの権利」を活用し、人権および子どもの権利にかかわる4つの権利（安心して生きる・自分らしく生きる・豊かに育つ・参加する）の大切さについて考える。
- ② 実践①②で学んできたアイヌ文化に関わる学習と関連させ、「自分らしく生きる」ことやそれが大切にされる社会について話し合うことを通じ、自分たちや他者の人権の尊重について考える。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 活動プログラムの内容が適切かつ効果的で、講話・音楽・舞踊・遊び・展示物の全てが本物の教材として子どもの心に響いていた。2時間の活動プログラムの他、昼食後1時間のグループ見学・調べ学習の時間設定が効果的であった。
- ・ アイヌ文化や歴史について学んだことを関連させ、道徳における人権学習「自分らしく生きる大切さ」につなげることができた。

② 課題

- ・ ピリカコタン訪問を含まない学校の場合、学習計画の設定をどのように進めていくか。
※アイヌ伝統・文化資料の借用や講師の招請等を積極的に取り入れていく必要がある。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 事前の学習でアイヌ文化や言葉・地名に関わる基礎的な知識をもってピリカコタン見学に臨むことで、講話や体験の場面での講師の方とのコミュニケーションや親しみが深まり、子どもも意欲的に取り組むことができる。
- ・ 教材研究において、アイヌ文化振興・研究推進機構から提供されている各種絵本、DVD等の映像教材、子ども向け副教材や教師用指導資料の有効活用および校内研修が大切である。